



第12回異文化交流サロンの文化事業委員会

～「潮干狩り」バスツアー～

2001年7月29日(金・海の日)

海風のさわやかな青空のもと、三重県は津市御殿場浜にて第12回異文化交流サロン「潮干狩り」が開催され、43名が参加しました。

昨年よりもさらに多くの、実に28人という外国籍の方々の参加。国籍別ではアメリカ、中国、ブラジル、ペルー、フィリピン、年齢別ではフィリピン・中国の2歳、ペルー・ブラジルの保育園・幼稚園児、ブラジルと中国の小学生、日本の中学生から熟年男女までといった素晴らしい色彩の異文化交流サロンとなりました。

バスの中では、各国のあいさつをまずそれぞれの国の方が発音、その後みんなで練習しました。「おはようございます」はタガログ語では「マガンダング ウマガ」といいます。「マガンダング ウマガ」といった具合に。ビンゴゲームでちょうど賞品が行き渡ったころには、バスは目的地の御殿場浜をすぐ前にしていました。浜に到着後、さっそく籠手と網をもって潮干狩りが始まりましたが、そこには文化の違いも、大人とこどもの違いさえないほどの熱中ぶりでした。昔懐かしい七輪での焼き貝や、貝ご飯に貝汁はどの国の方にも好評で、食後は水着に着替えて泳ぐ子供たちや大人、日陰で潮風を楽しむ人達など、それぞれに海辺でのひとときを楽しみました。帰りの関ドライブインでもお土産ものを見て回ったり、買ったりと、また時間を忘れるほどの楽しみようでした。

あるペルー女性が、食べ物がとてもおいしかったこと、太平洋を共有していることの感動を語ってくれました。今回の交流サロンでたくさんの方々の友達が得られたことでしょう。次回の異文化交流サロンでも是非の再会を願い、今回参加出来なかった方々の次回のご参加をお待ちしています。

アンケート結果でも、ほとんど全員が「とても楽しかった」と答えてくれました。「とても勉強になる機会になりました。みんないっしょに交流し、交流のなかでいろいろな国の人々と友達になることができました。同時に日本語も勉強できました。」とは、中国の一女性。今後の希望イベントもスポーツ・パーベキューパーティー・小旅行・学習会・料理教室と、異文化交流サロンによせる期待は大きいようです。



私たちは RIFA の活動を応援しています。

風産業株

藤京阪津ツーリスト

藤清水商店

藤新洲

藤スマイ印刷工業

創造産業株

富士工業株

藤宝文堂

ホテル ホストンブラザ草津

堀歯科医院

本間工業株

丸善産業株

藤丸屋建設

八洲コンクリート株

栗東総合産業株

栗東町農業協同組合

日本中央競馬会栗東トレーニングセンター

クロスカルチュラル インタビュー



お釈遊様が生まれたのはどこの国かご存じですか? 「インド」と答えた方、答えは「No.」ネパールです。巡礼者がよく訪れるというそのルンビニを訪れ、宿泊していたカトマンズで、まだ記憶に新しい王家銃撃事件を目の当たりにした RIFA 会員の上田さんのもとへ 8 月 4 日、一青年がやってきました。事件現場のすぐ近くのゲストハウスを営んでいる彼は、宿泊していた上田さんを危険から守るための尽力を惜しみませんでした。

マドウ スダン ダカロ さんです。

—— 日本に来たいと思った理由は何ですか。

ネパールにくる観光客の60%は日本人です。カトマンズで日本語を少し学び、日本人観光客と話すことで日本語を覚えました。銃撃事件以来、観光客は帰国してしまい、今も暴動が起こっていて観光客は全く来なくなってしまいました。多くの日本人と出会ったことで日本に興味を持ち、この機会に日本について勉強しようと思い、上田さんを頼って来ました。初めて日本に来て大変驚きました。ネパールは日本より500年遅れています。(笑)

—— 銃撃事件の後、ネパールの男性たちが議論を戦わしている場面が何度もTVで放映されましたが、男性たちはみんな丸刈りの頭でした。ネパールでは男性はみんな頭を丸刈りにするのですか。

王様がなくなったからです。(女の人も? という質問に答えて) 国民の男性はみんな丸刈りにします。(ちなみに、上田さんも丸刈りにしたそうです。)でも今年は2人の女性も丸刈りにしました。これは良いことです。ネパールでは自分の両親が亡くなったときも男性は丸刈りにします。

—— ネパールの人口はどのくらいですか。国民はみんな仏教徒なのですか。

人口は2000万人位で、仏教徒とヒンズー教徒の半々位です。宗教は違っても宗教そのものの考えはひとつですから争いはありません。



ネパール語で RIFA 会員のみなさんへ

メッセージを書いていただきました。

सर्वे जायन्ति क्षायते मेरो स्वागत छ।
म नेपालबाट आएको छु। नेपालमा
थेरै हिमालहरू छ। त्यस अरुण
तण्डवका पछि हेर्ने आठुनु होला।

私はネパールから来ました。ネパールのきれいな山々を見に来てください。

マドウさんは、11月3日まで上田さん宅に滞在予定で、RIFA 日本語教室でも学習したいと考えています。とてもフレンドリーな方です。「日本人は親切です。好きです。」というマドウさんとお会いしてみたい方、ネパールのお話を聞いてみたい方、RIFA 事務局にご連絡くださればお伝えします。

国際情報高等学校のALT（外国語指導助手）2年目の夏。もうすっかり栗東町住民としての落ち着いた生活を楽しんでおられるシャーロット クックさん。日本語学習といえば、水口町国際交流協会の日本語教室に、最近ではRIFA日本語教室にも通っているほどの熱心な勉強ぶりです。さわやかなその笑顔で、このコラムの原稿を引き受けてくださいました。1年ぶりの祖母と



Return to England

by Charlotte Cook

I have been living in Japan for one year now. This summer I took a trip home to England and looked out for things that had changed over my yearlong absence.

The most striking thing was not something that had changed but rather something that I didn't realize I'd missed — the green fields of grass that seemed to go on miles. It was good to see that there were still some farm animals that had survived the 'foot and mouth' disease that swept through Britain last winter.

My hometown of Birmingham was undergoing major changes for the 21st century. As a result, I felt like a stranger in my own city. But I soon found out where all the good clothes shops had been moved to and did some serious shopping! It was heaven... clothes that actually fitted me! This is a rare thing in Japan.

I was pleased to find that my family and friends hadn't changed. It was wonderful that so many of them could spare time to see me and were excited to hear all my stories about Japan. And through these stories I think I have changed some of their ideas of Japan for the better.

I realized that it's hard to imagine what kind of life I am living in Japan for people who have never been here, and that I am very lucky to be experiencing such different things. I am not saying that one country is better than the other is, because I believe that each country we experience can teach us so many important lessons.

イギリスに帰ってみて

シャーロット クック

日本に来て1年になります。この夏イギリスに帰り、この1年間に物事が変わっているのに気づきました。

最も心を打たれたのは、何かが変わったということではなくてむしろ、今まで自分が気がつかなかったこと、あの懐かしい「どこまでもどこまでも続いているかのような緑の草原」でした。去年の冬にイギリスを襲った口蹄疫、その疾病から免れた動物を見ることができたのは幸いでした。

私の故郷、バーミンガムでは21世紀に入って大きな変化がありました。で、私は自分の町にいなからよそから来た人のように感じました。けれどすぐに素晴らしい数々の洋服店が移ってきているのがわかり、重要な買い物をしました。なんて素敵…洋服が実にぴったり合うなんて。日本ではめったにないことです。

家族や友達が変わっていないということには安心しました。うれしいことにたくさんの人たちが私に会いに来てくれ、日本について私の話を感心して聞いてくれました。私は自分の話を通じて、彼らの日本についての考えを良い方向に変えられたと思います。

日本に住んだことのない人たちが、私が日本でどんな生活をしているのかを想像するのは大変だということに気づきました。そして、私はそんな違ったことを経験していることを、とても幸運であることに気づきました。私は、ひとつのある国が他の国よりいいと言っているのではあまりせん。なぜなら、私たちが経験できるどの国にも、学ぶべきたくさんの方の大切な教訓があるからです。

● 読者コラムにご投稿ください ●

RIFA日本人会員・外国人会員どなたでも、またエッセイ、紀行文、詩、短歌や俳句など何でも結構です。採用分には薄謝をさしあげます。

郵便番号・住所・氏名・年齢・職業・TEL/FAXを添えて事務局までお送りください。なお、匿名を希望される方はその旨お書き添え下さい。